

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500328		
法人名	株式会社笑顔いちばん		
事業所名	グループホーム笑顔いちばん各務原		
所在地	岐阜県各務原市蘇原新栄町3丁目6番		
自己評価作成日	平成29年12月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190500328-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190500328-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを尊重して生活して頂いています。日々笑顔が生まれるよう、職員と利用者との関係作り、ご家族との関係作り、利用者との会話を多くすることを心がけています。また、平行棒や、リラクゼーション器具を取り入れ気軽に身体のケアが出来る環境を作り、健康寿命を延ばすことでいつまでも元気で、自分らしく生活が出来るよう支援をさせて頂いています。共用スペースを広く取り、落ち着いてゆったりと安心した生活が出来るよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成29年3月に開設した事業所であり、運営推進会議で提案された意見や、家族からの要望等を真摯に受け止め、運営に反映している。地域との関わりは、これからであるが、管理者が「子供110番」の件で小学校へ出向いて話し合ったり、地域清掃や夏祭りに参加し、事業所のイベントにも住民を招待している。「生活機能改善室」には、リハビリコーナーがあり、利用者個々の身体低下予防に活かしている。職員は、働き易い環境の中で互いに学び合い、事業所名である「笑顔いちばん」のように、利用者の笑顔があふれるホームを目指し、支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社理念の笑顔創りの部分でいかに入居者様を笑顔にできるか、日々スタッフで考えて行動しています。地域貢献に関してはまだまだあまり考えられていなく、今後の課題です。	法人理念は「笑顔作りは街づくり、福祉を通じて、笑顔あふれる街づくりに貢献します」とし、玄関に掲げている。職員は、常に笑顔で明るく利用者に接し、一人ひとりに合わせて、快適な暮らしを送れるよう支援の実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントの参加は時折参加しています。積極的な日常的な地域参加はまだ行えていません。施設の浸透度も現在低く、今後地域に根差した施設運営が必要と考えています。	自治会には、協力事業所として加入し、地域清掃や、夏祭りに参加している。事業所の夏祭りには、焼きそば、かき氷、ヨーヨー釣り等を出店し、地域の人たちを招いて交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談や見学などに来られた方には認知症の人への理解や、グループホームについての説明をさせて頂き、認知症の方への理解を深めて頂けるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加して頂いた方に施設の取り組み等を報告をし、アドバイスを頂いてサービスの向上に活かすように努めています。	運営推進会議には、行政、自治会長、民生委員等が参加している。「こども110番」の登録や、AEDの操作訓練実施の提案等、積極的な意見交換やアドバイスがあり、出来ることから、速やかに実践に繋げている。	運営推進会議の意義を踏まえて、利用者や家族の参加が得られるよう工夫されたい。また、回覧板がホームにも回るよう自治会に依頼し、地域情報把握の場となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の担当者と連絡を取ったり、運営推進会議に参加して頂いたり、協力関係を築くよう努めています。	行政主催の勉強会には、管理者が参加し、職員に伝達している。家族からの質問に対し、事業所で判断できないことは、市の担当者に相談し、解決に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはスタッフと話し合ったり、日々のケアの中で拘束しないように努めています。利用者の尊厳を害さないケアに努めています。	以前、テンキー式のロックを解除し、外出してしまつた利用者があり、安全面を考慮し、現在は、玄関は施錠している。職員は、利用者への不適切な言葉かけや対応については、その場で注意し合い、申し送りやミーティングで話し合っている。	全職員で、拘束にあたる具体的な行為や弊害について理解し、外に出たい利用者の思いに寄り添いながら、対応方法の工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体観察を行い、変化があれば職員間で報告し合っています。報告を受け、確認を行い、虐待への防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業や成年後見人への理解を深めるために職員は研修会に参加したりして学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族様に納得してもらえたか確認しながら契約を行っています。また加算等で料金等が変更になった場合や契約の変更があった場合は再度ご家族に説明を行い、同意をとっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見をお聞きし、意見をまとめ、反映し、取り組んでいます。変更した点などはご家族に報告して運営に反映しています。	玄関に意見箱を設置している。家族の面会時には、帰り際に声をかけたり、出来るだけ意見や要望を引き出すよう努めている。疎遠な家族には、管理者が直接自宅を訪問している。家族の意見を反映し、三食とも職員の手作りによる食事を提供している。	家族に、職員の顔と名前を覚えてもらう方法を工夫し、コミュニケーションを円滑に行いながら、信頼関係を深め、より良い利用者サービスに繋がるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを定期的に行い、運営状況や、職員の意見や提案を聞き取り、反映している。またご家族へのアンケートも実施し、年度の方針に反映させています。	職員は、内部研修に参加し、他の事業所職員と活発な意見交換を行っている。利用者同士の交流方法や食事作りについても話し合い、参加者から出された意見や提案等を、迅速に運営や日常業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心が持てるように自己評価を実施し、個人の努力の把握に努めています。また行事を企画してもらうなど役割を持って頂き、各自が向上心が持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に行い、職員がスキルアップが出来るように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の交流できる会に参加し、同業者と話が出来る機会を作り、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者、ご家族の不安の軽減に努めています。ご家族に施設の説明を行い、入居後も安心して頂ける関係を作るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前、契約時、入居時に利用者、ご家族へ要望や不安等に耳を傾け、一緒に生活できる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族、職員と話をしながら、サービス利用の際、何を求めているか、必要なサービスを見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が何が出来るか把握し、残存機能が最大限発揮できるよう努めています。また趣味等を把握し、一緒に家事などが出来るよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の意見を聞きながらご家族へ報告し、ご家屋へ足を運んでいただき、意見を聞き安心した生活を支えられるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人にお越し頂いたり、ご家族に外出、外泊を進めたりと声掛けをさせて頂き支援しています。	現在は、家族の訪問が中心であるが、時々、利用者の友人から電話があり、訪問時には、楽しそうに談笑する姿が見られる。また、家族と一緒に、法事や親戚の集まりに出かける利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が話題を作ったり、他利用者に声をかけて、話が出来る環境を提供できるように支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を中止された方がまだいません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人が何を求めているのか、スタッフ全員が利用者に寄り添い希望、意見の把握に努めています。一人ひとりの意向を尊重できるよう職員本位にならないよう努めています。	日々の会話の中で、知り得た利用者の思いや意向を、職員間で伝達し合い、共有している。常に、利用者に寄り添いながら、一人ひとりの表情や動きからも、意思表示や変化を見落とさないよう、ケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の情報を以前のケアマネージャーから情報を頂いたり、ご家族に伺ったり、本人から聞いたりと現在までの生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフで話し合いを行い、現在の状況、心身状況の把握に努めています。また現状の変化がないか情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ、利用者、ご家族と話し合い、あり方、現在の支援方法について話し合い、計画書を作成しています。	利用者、家族の意向を反映した介護計画を立案し、定期的に見直して、家族に説明をしている。	現状の介護計画について、職員の意見、医療面からの評価、家族意向の再確認を行い、見直し時には、新たな課題と本人の目標を据えた介護計画づくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態を把握し、職員間で話をして情報共有に努めている。介護支援専門員を介して実践、見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々生まれるニーズに対して、職員本位にならないよう、柔軟な支援に努めています。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やご友人の面会を大切にし、利用者が暮らしを楽しめる様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の医師との話し合い、家族との話し合いで適切な医療が受けられるように支援しています。	かかりつけ医は希望により、継続している人が数名ある。協力医は月2回の往診があり、訪問看護師とは、24時間の連絡体制がある。かかりつけ医受診は家族の同行を基本とし、本人の最近の様子や、バイタル測定表を渡し、受診後は、医師から報告を受けている。歯科医の往診体制もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師、看護師と情報を共有し、利用者が適切な受信が出来るように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された方がいないが、入院の場合に備え、医師、看護師と情報の共有を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ重度化、終末期対象者がいないが、契約時に一度話をご家族と話し合っています。	重度化については、契約時に説明しているが、状態変化の際には、家族、協力医、関係者等で話し合う方針である。また、協力医と事業所とで、支援できる範囲であれば看取りも可能としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、事故発生に備えてマニュアルを作成したり、職員との話し合いをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路や自動通報装置等の使い方の確認を行っています。また職員と話し合いをし、非常事態に適切な行動が出来るよう努めています。	消防署立ち会いの下、自動通報装置使用方法の説明を受けている。職員は、避難経路に沿って、安全に利用者の避難をサポートできるよう訓練を行っている。	各種災害や夜間を想定した訓練の実施、地域の防災訓練への参加等、出来ることから取り組み、災害時における連絡網の整備、備蓄の確保にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格の尊重に努め、言葉掛けなどに注意して支援を行っています。	職員は、利用者一人ひとりに丁寧に話しかけている。居室は内側から鍵をかけることができるが、現在、使用者はいない。男性が6名、女性3名と男性利用者が多く、羞恥心に配慮しながら、入浴日を設定している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が本人の意向、自己決定が出来るよう働きかけをし、選択が出来る声掛けを意識しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の行動を第一に考え、都度利用者に職員が寄り添うように支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え際に職員が服を選択できるよう提案をしています。また理髪店で好きな髪形にできるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の好みを把握し、食事に反映されるようにメニューを考えています。準備や片づけ等、出来る事は行ってもらっています。	食事は、朝昼夕の三食共、職員の手作りで提供している。食事中の会話の中で、食べたい物や好みの味付け等を聴いている。目の不自由な利用者には、食器の配置など、丁寧に説明しながら、適切に介助している。食後は、自主的に下膳する利用者もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分摂取量等、常に把握し、ご家族とも話し合い、適切な食事の提供に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、残存能力を生かし、口腔ケアに取り組んでいます。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を考えながら、おむつ等極力使用しないように努めている。排泄のパターンを把握し、状況に応じて声掛けや、自立の支援に努めています。	排泄が自立している人、声かけでトイレ誘導する人、夜間のみポータブルトイレを利用する人等、様々である。職員は、一人ひとりの排泄状況を把握し、羞恥心や安全に配慮しながら、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄周期を把握し、状況に応じて腹部マッサージや、飲食物を選択して支援を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意向を聞き、入浴日を決定しています。可能な限り利用者の意向を聞き、入浴して頂けるようにしています。	広くて清潔な浴室は、機械浴にも対応できる。利用者の希望に応じて入浴日を決め、安全に配慮しながら支援している。また、季節の湯として、冬至には、柚子湯でゆったりと入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンに合わせ、自然に睡眠がとれる様支援している。書室内の温度調整等毎回意識して行い、快適に睡眠がとれるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を見て薬の副作用、用法容量の把握に努めている。症状の変化には十分確認するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、力を活かし、出来る事をやって頂けるよう生活に役割が出来るよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等定期的に支援をしています。外出に関しては不定期ですが、ドライブなどを企画し行っています。	事業所周辺の散歩を日課としているが、天候により行けない時は、玄関前のスロープや「生活機能改善室」で運動をしている。買い物に行ったり、理美容院への送迎、紅葉見学、ドライブ等の外出も支援している。	

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設側が金銭に関しては管理していますが、都度必要があればご家族や施設が対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には施設側がご家族の対応をしています。利用者が必要とおっしゃられた際は対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は利用者が使いやすいようにスタッフと話し合い、極力障害物がないようにしています。利用者とともに季節感の出る作品づくり等を作成しています。	茶色を基調とした共用の間には、柔らかい陽射しも入り、家庭的で落ち着いた雰囲気である。自然換気を行いながら、加湿器も活用し、見やすい温湿度計で空調管理を行っている。トイレやエレベーターも、車椅子やストレッチャー等が対応出来る広さが確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者、ご家族の要望に沿って環境作りを行っていますテレビの前やテーブルに利用者が集まって穏やかに過ごせる環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と話をしながら居室作りを行っています。落ち着いて過ごして頂けるよう、利用者、ご家族と、話し合っ都度部屋の模様替え等を行っています。	各居室の前に家型のネームプレートがあり、季節の手作り作品を飾っている。壁紙はすべて色違いで、自分の部屋を間違わないように工夫している。個人差はあるが、家から思い出の物や整理ダンス、衣装かけ等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を活かし、スタッフも最低限の支援を心がけています。安全に生活ができるよう、出来る事、わかることを活かした生活が出来るよう努めています。		